

# 新型コロナウイルス感染症の 教育活動への影響

世界的に流行している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大防止のため、全国のほぼすべての高校が3月上旬から臨時休業した。その後、感染者数の増加、緊急事態宣言の発令などにより休業期間は断続的に延長され、2019年度末から2020年度新学期にかけて、高校の教育活動は大幅な見直しを迫られた。

多くの高校が6月中には学校を再開したものの、

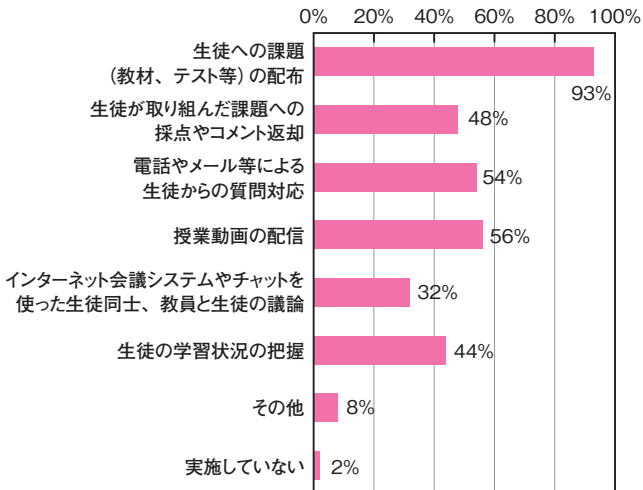
今後は「新しい生活様式」を踏まえ、授業、学校行事、部活動などあらゆる教育活動の在り方を長期にわたって再考していくことになるだろう。

そこでガイドライン編集部では、ガイドラインモニターの先生方を対象に、臨時休業期間中の教育活動の取り組みと、新型コロナウイルス感染症の中長期的な影響などについてアンケートを実施した<sup>(注)</sup>。ここではその一部を紹介する。

## 生徒への課題の配布などを中心に 多くの高校が休業期間中の生徒の学習を支援

文部科学省「新型コロナウイルス感染症に関する学校の再開状況について」（6月2日）を見ると、臨時休業を実施する高校は、4月22日時点で公立97%、国立100%、私立98%であり、5月11日時点で公立90%、国立93%、私立88%と、多くの高校が3月上旬から5月中旬頃まで臨時休業した。5月中旬から再開する高校が増え、6月1日時点で全国の96%の高校が学校を再開している。公立については再開が100%だが、そのうち全面再開は57%に留まり、短縮授業実施中12%、分散登校実施中31%となっている。

<図>臨時休業期間中の遠隔授業等の実施 (n=123)



ガイドライン編集部では、5月上旬から6月上旬にかけ、ガイドラインモニターの先生方を対象に、臨時休業期間中の教育活動などについてアンケートを実施した。

まず、教科や「総合的な探究の時間」で遠隔授業を実施したり、生徒が自宅で学習できる課題を課したりしたかを聞いた<図>。「実施」の割合を見ると、「生徒への課題の配布」は93%と多くの先生が実施し、「授業動画の配信」「電話やメール等による生徒からの質問対応」なども半数を超えた。具体的な取り組みを見ていこう。

### 遠隔授業等の取り組み

- ◆学校のHPに各教科・科目からの学習課題を週1回掲載している。科目によっては、教科書会社やNHKなどが提供している動画へのリンクを貼り付けている。動画を視聴できない環境の生徒もいるため、課題は動画視聴を必要としないものに限定している。（北海道、私立）
- ◆課題の配布は生徒が登校した際と郵送により実施した。質問については、登校日に対応したこととメールにより受け付けた。また、学習状況の把握としてGoogleフォームによる学習状況調査を数回実施した。（山形県、公立）
- ◆オンライン授業を実施。当初は全校で1チャンネル、5月11日からは3チャンネル同時開講で、25分の授業を学年別に終日（8:30～16:30）連続で展開している。（岐阜県、公立）
- ◆音声教材、プリント、英単語テストなどを配信しました。単語テストについては、生徒の解答を見て、よくあるミスについては該当の生徒のみにテキストメッセージで解説をしました。（三重県、公立）

(注) ガイドラインモニター対象の「ガイドライン4・5月号に関するアンケート」の中で、2020年5月から6月に実施。回答136件。回答に含まれる取り組み内容は、いずれも回答時点のもの。

- ◆教科書を書画カメラで撮り、そこに解説を重ねていくというシンプルな方法ですが、1レッスン当たり3本前後撮影して、学校が独自に設定したYouTubeにアップしていません。(福井県、公立)
- ◆わが校では、緊急事態宣言により5月31日まで臨時休業が延長されることで、1学期の中間考査が中止になり、その中間考査に相当する学習課題を、各生徒の家庭に直接郵送した。生徒の学習状況の把握については、その課題の進捗状況を電話で確認するなどしている。(兵庫県、公立)

## インターネットや電話、郵便を活用して教育活動を継続

遠隔授業等以外で、臨時休業期間中に取り組んだことについて2つまで具体的に書いてもらった。遠隔授業や教員の在宅勤務に伴うICT環境の整備、生徒のメンタルケア・ヘルスケア、学習習慣や生活習慣、学校行事や部活動など、幅広い取り組みが挙げられた。

## 生徒との人間関係の形成、生徒のメンタルケア・ヘルスケア

- ◆心配なことや、教員・カウンセラーと話したいことはあるか等、アンケートを実施し、問題を抱える生徒をチェックする取り組みをした。(茨城県、私立)
- ◆担任としては、Google Classroomなどを使った生徒との連絡のやりとりや健康把握などを行っています。また、LINEなども活用して生徒とのコミュニケーションをとっています。(東京都、国立)
- ◆新高1生は入学式さえ行っていないので、メンタルが心配でした。そこで、新高1生全員にお手紙を書き、配信しました。勉強に関する質問や進路に関する質問は、メッセージでやりとりして励ましています。(東京都、公立)

## 学習習慣、生活習慣

- ◆課題の配布、週1日であるがオンライン会議による短時間の出欠確認で生活リズムの乱れを少しでも抑制できるようにした。(静岡県、私立)
- ◆学習計画表を配信し、それに計画を立てて、実績を記入するように指導しました。(三重県、公立)

## 進路指導・進学指導

- ◆進路に関する情報をまとめて、ホームページ上にアップをした。先輩の体験談なども掲載し、できるだけ希望が見える形を心がけた。(愛知県、公立)
- ◆1学期に実施する予定であった進路ガイダンスや進路講演会が中止になるに伴って、それに代わる進路アンケート用紙を作成し、各生徒の家庭に直接郵送した。アンケートには、各大学・短大・専門学校・企業などの情報を見ることができ、QRコードが掲載されており、それを生徒が個々に活用できるようにしている。(兵庫県、公立)

## 学校行事、部活動

- ◆入学式は式典のみYouTubeで配信。始業式はYouTubeで配信後、Zoomで各クラス担任が主催してホームルームを開催。(東京都、私立)
- ◆インターハイが中止になって困惑しているであろう生徒に個別に電話し、心情を聞き取り、気持ちの持っていく場を模索した。(滋賀県、公立)
- ◆部活動について、LINEを用いて、生徒の日々の個人練習状況を把握したり、今後の大会予定等についてなどの連絡を取っている。(山口県、公立)

## ICT環境の整備

- ◆オンラインで授業をするにあたり、ICT環境が整っていない生徒に対し、パソコン(Chromebook)を無償貸与。貸与者は生徒からの申し出による。(長野県、公立)
- ◆ロイロノート、Zoom、YouTubeを用いた効果的な教材の提供の仕方なども含めて、ICT機器の使い方の基本を学ぶ。(愛媛県、公立)

## 教員の働き方など

- ◆まずは、定期考査や学習評価に関して次の2点について取り組みました。(1)教務内規を改定し、弾力的運用を可能にした。(2)各教科のシラバスを2通りとし、「定期考査実施の場合」と「定期考査を実施できなかった場合」のシラバスを用意してもらいました。それに伴い、評価観点も2通りとなっています。(岩手県、公立)
- ◆教員間の連絡手段が限られておりますので、これまではなかった、ネット上での相談(議論)・判断にPCを用いることが一般的になりました。(奈良県、公立)
- ◆時間に余裕があるうちに、従来担任が手入力していた進路希望調査等をマークシート式に変更し、担任業務の削減を図りました。(香川県、公立)

## 学習の遅れや対面で行う活動の実施などに課題

新型コロナウイルス感染症への対応や休業に当たりどのような影響が出ているのかを聞いた。現時点(5~6月)では、学習進度が遅れることや、自律的に学習できる生徒と難しい生徒とで理解度の差が生じること、遠隔では実施しづらい教育活動などが挙げられた。中長期的な影響としては、現時点での影響として挙げたものに加えて、大学入学者選抜に向けた学習、学校を再開してからの感染対策、経済状況の悪化などがあつた。

## 現時点での影響

- ◆いつ再開できるかわからない不透明感の中で現場が手探り状態で、再開の準備をしている。また、再開されたとしても保護者や生徒自身が登校したいと思うか疑問である。(京都府、公立)



- ◆①前年度3学期の学習項目に関して、定着度を確認出来ないで、今後どのようにそれらを補填していくか。②今年度4月～5月が課題学習のみなので、理解度の確認及び理解が不足している項目に関する補講などの適切な実施。(千葉県、公立)
- ◆長期休業日等の短縮や土曜授業によって対応することになるが、詰め込みの効かない学力が中間層～下位層の生徒には学習面で大きな影響が出ると思う。逆に優秀な高校生、特に3年生はこの休業期間を有効に使えたのではないか。(茨城県、公立)
- ◆授業はオンラインでできるが、定期考査が実施できない。1年生の顔合わせができず、クラスとしての活動が始められない。学習の遅れの不安を払拭できない。模擬試験が受験できない。(東京都、私立)
- ◆家庭科や体育・芸術等、対面授業でないと指導が難しい分野があり、休校後の授業のあり方(コマ数)について検討が必要である。また、現状では定期考査についても対面でないと感じる教科が多い。(長野県、公立)
- ◆座学については課題などを使って自主的な学習で対応できていると思いますが、3年生の「課題研究」は実験をやらなないとどうにもならず、4月、5月と2カ月まるまる活動できなかったのが厳しい状況です。(東京都、国立)
- ◆学習進度の遅れと生徒の不安感を十分に解消できないこと。また、例年実施している保護者への進路講演会など、特に今年は新入試なので情報伝達が不十分な点。また、新入生はまだ高校生活を実感できず、友人関係なども未完成である点。例年は入学後に宿泊オリエンテーションがあるが今年は実施できなかった。(愛知県、公立)
- ◆休校が長期化する中で、学習保障は当然のことだが、特に3学年の生徒の保護者からは、残された学校生活が勉強一辺倒になってしまうことへの懸念や学校行事実施の要望を寄せられることが多い。学校行事の実施の要望は、部活動よりも強いと感じる。(北海道、公立)
- ◆教育現場でできる感染症対策には限界がある。教室で密にならざるを得ないのはもちろん、特別教室での机・椅子の共用、実習科目における道具の共用など、どこまでの対策ができるのか(求められるのか)、途方に暮れる。(愛知県、公立)

### 中長期的な影響

- ◆1年間のカリキュラムが終わらない。終わらそうとすると、急いだり、夏休みも授業を行うなど、必ずしも生徒にとって良い条件で学習をさせることができない。(石川県、私立)
- ◆夏に換気をしながらマスクを着用させて授業を行うことについては、健康面での不安も多いです。今年の夏の気候次第ですが、エアコンをつけても、外からの暖かい風に負けるだろうと予想しています。(熊本県、私立)
- ◆3年生の部活動に関わる大会はほとんど中止になったが、最後の県レベルの大会だけは実施する動きもある。「9月入学」の議論もあり、受験生としての気持ちの動揺もあるのではないか。(愛媛県、公立)

- ◆総合型選抜や学校推薦型選抜も含めた大学入試についての生徒、保護者への説明や対応スケジュールが決められないこと。地域によって休校期間が異なることにより、大学入試を行う際にどれだけ公平性が保たれるのか不安なこと。(山形県、公立)
- ◆入試日程、あるいは入試に関する情報発表の遅れなどが今後どこまで続くのか。総合型選抜、学校推薦型選抜の日程が後ろ倒しされる場合、合格すればいいが、不合格だった場合に一般入試への切り替えに使える日数がほとんどなくなる。(香川県、私立)
- ◆親の収入減による生徒の進路選択への影響(進学から就職への変更)。地域経済の停滞・沈滞による就職環境の悪化(本校生徒は、進学で地元を離れても就職で戻ってくるケースも多い)。これらは現3年に限らず、現1・2年にも少なからず影響があると考えられる。(北海道、公立)

### 臨時休業や遠隔授業を機に学校の意義を考える

最後に、臨時休業などを通じて見えてきた、学校の意義や対面授業の良さなどについて聞いたところ、生徒同士や教員と生徒のコミュニケーションがしやすいこと、学習習慣や生活習慣を作りやすいことなどが挙がるとともに、遠隔授業等の経験を踏まえて高校の教育活動を見直す機会としたいといったコメントも見られた。

- ◆家庭やオンラインでできることが明確になった。ということとは、学校の意義は、個別に対応することではなく、関係性を築くことにある。集団でなければ獲得できないことは、協働性に関わる、相互の影響の発揮である。(中略)つまりは、学校の意義は、オンラインでできないことに注力すればよいということである。(北海道、公立)
- ◆授業だけなら、環境さえ整えばオンラインでも可能でしょうが、生徒の話を直接聞いたり、グループで活動させて横からいろいろ口を出して盛り上げるのは対面でないといけない。今後もこのような事態が想定されるなら、学校の機能を整理して、オンラインと対面の住み分けが必要だと思います。(大阪府、公立)
- ◆学校が生徒の基本的な生活習慣作りにもどれほど貢献していたかがよくわかりました。学習に取り組む生徒もそうでない生徒も、それぞれリズムづくりに役立っていたように感じます。(香川県、公立)
- ◆登校することが「当たり前」だったものが、実は「当たり前ではない」ということに気づいています。従って、探究活動の中で、「制約の中でできることは何か」という問いについて生徒も教員も全員で取り組んでいます。そもそも「学校で学ぶ意義は何か？」から出発して、今までほとんど考えずにやってきたさまざまな活動や行事について考え直したり、見直す機会にしたいと考えます。こういった困難は嘆いていても仕方がないので、「どう生き抜いていくか」ということにさまざまな観点からのアプローチを期待しています。(岩手県、公立)